

◎石狩のニシン漁を全国へ

3月1日(火)・2日(水)、東京で開催された「全国青年・女性漁業者交流大会」で、石狩管内漁業士会を代表して厚田区の中井寿美子さんが、ニシンをテーマに発表しました。中井さんは、ニシン資源を守るため、漁期の統一はもとより未成熟魚を捕らないよう網目の大きさの規制を働きかけてきたことや、ニシンのおいしい食べ方を伝える料理教室などの活動を、大舞台でしっかりと紹介。発表の結果、全国漁業協同組合連合会(全漁連)会長賞を受賞しました。



◎浜高 最後の卒業式 ERIS

本年度で閉校となる浜益高校の卒業式が3月1日(火)に行われました。最後の卒業生となった沼田香純さんは、同校卒業生や家族が見守る中、校長先生から卒業証書を授与され、答辞では先輩たちや家族への感謝の言葉と共に、浜益での思い出を胸に社会人として歩んでいくことを誓っていました。



◎今年も新港で寒中石狩屋台村!

3月5日(土)、サン・ビレッジいしかりを会場に、石狩青年会議所が第4回寒中石狩屋台村を開催しました。石狩鍋など地元のおいしいものや地元企業の物産展が並び、人気のサーモンファイターショーや寒中花火大会が行われました。また、学校教育を満足に受けられない世界の子どもたちのために、今年もカンボジア支援事業を企画。来場者にはリコーダーやサッカーボールなど、物資の提供や支援金を呼びかけました。



人気のサーモンファイターショーで。



石狩のいいものがならんだ屋台。

◎ひと味違う古本市

3月11日(金)・12日(土)、花川北コミセンで、第2回本のリサイクル市「ブック・マーチ」が開催されました。NPO法人ひとまちつなぎ石狩の主催で、市民へ呼びかけて集まった中古本はおよそ3500冊。小説・絵本・文庫本などが格安で頒布されました。収益は海外の教育資金や同コミセン内「ぼぼらーと」の図書室の本の購入などに使われます。参加した樋口博さん(花川南)は「良い本がたくさん手に入りうれしい」と話していました。



◎春を告げる魚 ERIS

市内では今年も群衆が見られ、石狩湾漁協では3月18日(金)現在で925トン(前年比94%)のニシンの水揚げがありました。写真は3月1日(火)の浜益漁港での網外し作業。かつて浜益ではニシンが大漁の際、網についたニシンの卵をはたき落とすときに「こはたき音頭」が歌われました。今も網には当時ほどではないものの、ニシンの卵が付いており、こはたき音頭の鼻歌が聞こえてきそうです。



まちの話題

●まちの主な出来事を写真で振り返ります。

○子育てハッピーセミナー [E15]

2月15日(火)と21日(月)の2日間、花川南・花川北コミセンで「子育てコーチング」を学ぶセミナーが開催され、合わせて50人以上の子育て中のママたちが参加しました。石谷二美枝コーチの楽しいトークには、「コミュニケーションスキルが自然に学べた!」「また来てほしい!」と感激の声。ハンドマッサージやおもちゃの修理、食育&試食タイムもあり、皆さん大満足のセミナーとなりました。



隣の人とペアになってコミュニケーションスキルの実践。

○ふるさとを10倍元気に

2月25日(金)、望来コミセン(みなくる)で、「石狩市女性のつどい」が開催され、厚田区・浜益区の女性団体会員など約50人が集まりました。「石狩はまなす倶楽部」の主催で、講師の札幌大学文化学部教授の佐藤勝彦さん(望来在住)は「一人ひとりが元気だという意識を持ち、女性ならではの知恵を持ち寄りながらみんなで地域を元気にしていきましょう」と、スライドを使いながら楽しく講演。参加者の一人は「お話を聞いて元気が出ました」と大変充実した様子でした。



○石狩産がずらり大集合! [E15]

2月19日(土)、花川北コミセンで「いしかり地産地消フェスタ2011」が行われ、地元の農産物や水産物、加工品を販売。「寒じめホウレンソウ」のように、開始早々売り切れたものもあるなど、会場は買い物客の熱気に包まれていました。地産地消を考えるシンポジウムや、地元の農・漁・加工業者が参加したパネルディスカッション、石狩産ニンジンやリンゴを使った料理教室なども行われ、参加者は地産地消の素晴らしさを肌で感じる1日となりました。



おんなそん ○恩納村から、めんそーれ

「めんそーれ」とは、沖縄の方言で「ようこそ」という意味。平成3年から相互交流が続いている沖縄県恩納村から、中学生18人・引率者5人の訪問団が来市し、2月28日(月)には市役所で歓迎式が行われました。訪問団の中には初めて雪を見たという生徒も多く、市内家庭での民泊やスキーなどを通して北国の生活を体験。これまで培ったぎざなの上にさらなる交流を深めました。

樽川中学校で琉球舞踊を披露する恩納村生徒の皆さん。